

注 意 事 項

- 1. 試験問題の数は 30 問で解答時間は正味 1 時間 40 分である。
- 2. 試験問題の持帰りを認めない。
- 3. 解答方法は次のとおりである。

(1) 各問題には a から e までの五つの答えがあるので、そのうち質問に適した答えを(例 1)では一つ、(例 2)では二つ選び答案用紙に記入すること。

(例 1) 101 県庁所在地 はどれか。	(例 2) 102 県庁所在地はどれか。 2つ選べ。
a 栃木市	a 宇都宮市
b 川崎市	b 川崎市
c 神戸市	c 神戸市
d 倉敷市	d 倉敷市
e 別府市	e 別府市

(例 1)の正解は「c」であるから答案用紙の
 101 a b c d e のうち c をマークして
 101 a b c d e とすればよい。

(例 2)の正解は「a」と「c」であるから答案用紙の
 102 a b c d e のうち a と c をマークして
 102 a b c d e とすればよい。

- (2) 答案の作成には HB の鉛筆を使用し、濃くマークすること。
 良い解答の例…… ● (濃くマークすること。)
 悪い解答の例…… ⊙ ⊖ (解答したことにならない。)
- (3) 答えを修正した場合は、必ず「消しゴム」であとが残らないように完全に消すこと。鉛筆の色が残ったり「✕」のような消し方などをした場合は、修正したことにならないので注意すること。
- (4) ア. (例 1)の質問には二つ以上解答した場合は誤りとする。
 イ. (例 2)の質問には一つ又は三つ以上解答した場合は誤りとする。
- (5) 答案用紙は折り曲げたりメモやチェック等で汚したりしないよう特に注意すること。

次の文を読み、1～3の問いに答えよ。

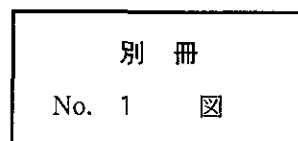
27歳の妊婦。妊娠38週。陣痛を訴えて来院した。

妊娠・分娩歴：23歳時に初めて妊娠し、10週で自然流産した。

既往歴：特記すべきことはない。

現症：身長158cm、体重57.5kg。体温36.4℃。脈拍84/分、整。血圧132/80mmHg。8分周期の規則正しい子宮収縮を認める。内診所見：子宮口2cm開大、展退度50%、先進部は児頭でSP0、頸部硬度は中、子宮口の位置は中央である。

6時間後の内診所見は来院時と変化はない。この時の胎児心拍数陣痛図(別冊No.1)を別に示す。



1 分娩の進行時期はどれか。

- a 分娩開始前
- b 緩徐期(レイテントフェイズ)
- c 活動期(アクティブフェイズ)
- d 分娩第2期
- e 分娩第3期

2 胎児心拍数陣痛図の所見はどれか。

- a 正常心拍数パターン
- b 早発一過性徐脈
- c 遅発一過性徐脈
- d 変動一過性徐脈
- e 遷延性徐脈

3 この時点での適切な処置はどれか。

- a 経過観察
- b ラミナリア挿入
- c オキシトシン投与
- d 人工破膜
- e 帝王切開

次の文を読み、4～6の問いに答えよ。

54歳の男性。息切れと皮下の出血斑とを主訴に来院した。

現病歴：生来健康で2年前の会社での健康診断では異常はなかった。4か月前から階段で息切れを自覚するようになり、2か月前の出張旅行では疲労感が強く、同僚に顔色不良を指摘された。そのころから常時頭重感があり、1週前に下腿前面に赤紫色の小斑点が出現しているのに気付いた。体重減少や発熱はない。常用薬はない。

既往歴・家族歴：特記すべきことはない。

現症：身長172 cm、体重63 kg、体温36.8℃。脈拍70/分、整。血圧110/70 mmHg。顔色は蒼白で、前胸部、下腿および足背に点状出血斑が多数散在する。表在リンパ節の腫大はない。眼瞼結膜は高度貧血様。舌と口腔咽頭とに異常所見を認めない。心尖拍動の左方偏位を認めるが呼吸音に異常はない。腹部は軟で圧痛はなく、腸雑音は正常である。下腿に浮腫はない。四肢の深部腱反射に異常を認めない。

検査所見：尿所見：蛋白(-)、糖(-)、ウロビリノゲン(±)、尿潜血(-)。便潜血反応陽性。血液所見：赤血球160万、Hb 5.6 g/dl、Ht 17.0%、網赤血球4%、白血球2,300(桿状核好中球10%、分葉核好中球15%、好塩基球1%、単球6%、リンパ球68%)、血小板0.9万。プロトロンビン時間(PT)100%(基準80～120)、APTT 31秒(基準対照32.2)、血漿フィブリノゲン254 mg/dl(基準200～400)、血清FDP 10 μg/ml以下(基準10以下)。Ham試験陰性。血清生化学所見：総蛋白6.7 g/dl、アルブミン4.3 g/dl、ハプトグロビン52 mg/dl(基準19～170)、尿素窒素15 mg/dl、クレアチニン0.8 mg/dl、尿酸2.8 mg/dl、総コレステロール102 mg/dl、AST(GOT)16単位(基準40以下)、ALT(GPT)12単位(基準35以下)、LDH 350単位(基準176～353)、Na 141 mEq/l、K 4.1 mEq/l、Cl 108 mEq/l。免疫学所見：CRP 0.2 mg/dl(基準0.3以下)、抗核抗体陰性、直接Coombs試験陰性。骨髓穿刺所見：有核細胞数は減少しているが、異型細胞を認めない。

4 この患者で予想される症候はどれか。2つ選べ。

- a 鼻出血
- b 嚥下障害
- c 心雑音
- d 脾腫
- e 感覚障害

5 この患者でみられる検査所見はどれか。2つ選べ。

- a 変形赤血球出現
- b 血清ビリルビン値上昇
- c 血清鉄値上昇
- d γ-グロブリン値低下
- e 骨髓巨核球数減少

6 この患者に輸血療法を行う場合に適切な製剤はどれか。2つ選べ。

- a 新鮮血
- b 赤血球濃厚液
- c 洗浄赤血球
- d 濃厚血小板
- e 新鮮凍結血漿

次の文を読み、7～9の問いに答えよ。

36歳の女性。呼吸困難を主訴に来院した。

現病歴：5年前に心電図で左室肥大を指摘されたが、無症状のため放置していた。3か月前から労作時の息切れを自覚していたが、最近、夜間に呼吸困難発作が生じるようになった。

既往歴：特記すべきことはない。

現症：身長161cm、体重56kg。呼吸数16/分。脈拍86/分、整。血圧104/72mmHg。頸静脈は軽度怒張し、胸部では心尖拍動が左方に偏位し、その部位にⅢ音と汎収縮期雑音とを聴取する。呼吸音に異常はない。肝を右肋骨弓下に2cm触知し、両側下腿前面に浮腫を認める。

検査所見：尿所見：蛋白(-)、糖(-)。血液所見：赤血球385万、Hb12.1g/dl、白血球4,600。血清生化学所見：総蛋白6.8g/dl、アルブミン3.3g/dl、クレアチニン0.7mg/dl、総ビリルビン1.2mg/dl、AST(GOT)48単位(基準40以下)、ALT(GPT)56単位(基準35以下)、CK28単位(基準10~40)。心エコーの左室長軸断層像(別冊No.2)を別に示す。

別冊
No. 2 写真

7 この患者でみられる所見はどれか。2つ選べ。

- a 奇脈
- b I音亢進
- c 心膜摩擦音
- d 僧帽弁閉鎖不全
- e 左室駆出率低下

8 この患者でみられる心臓カテーテル検査所見はどれか。2つ選べ。

- a 右房圧上昇
- b 左室拡張末期圧上昇
- c dip and plateau 心内圧曲線
- d 左室-大動脈圧較差
- e 高心拍出量

9 この患者の治療薬として適切なのはどれか。2つ選べ。

- a 利尿薬
- b カルシウム拮抗薬
- c アンジオテンシン変換酵素阻害薬
- d 昇圧薬
- e 気管支拡張薬

次の文を読み、10～12の問いに答えよ。

52歳の女性。黄疸を主訴に来院した。

現病歴：15年前に健康診断で肝機能の異常を指摘された。7年前から全身の痒感が出現し、2年前から黄疸が出現した。1年前には吐血があり、食道静脈瘤に対して硬化療法を受けた。最近になり黄疸が増強したため、紹介され入院した。

既往歴・家族歴：特記すべきことはない。

現症：身長150cm、体重52kg。脈拍64/分、整。血圧108/58mmHg。皮膚と眼球結膜とに黄疸を認める。腹水と下腿前面の浮腫とを認める。

検査所見：尿所見：蛋白(-)、糖(-)。血液所見：赤血球369万、Hb11.8g/dl、Ht36%、白血球3,800、血小板8万、プロトロンビン時間(PT)35%(基準80~120)。血清生化学所見：総蛋白7.2g/dl、アルブミン2.8g/dl、IgA630mg/dl(基準110~410)、IgG3,178mg/dl(基準960~1,960)、IgM641mg/dl(基準65~350)、クレアチニン0.6mg/dl、総ビリルビン20.7mg/dl、直接ビリルビン18.5mg/dl、AST(GOT)123単位(基準40以下)、ALT(GPT)75単位(基準35以下)、アルカリホスファターゼ512単位(基準260以下)、 γ -GTP112単位(基準8~50)、コリンエステラーゼ106単位(基準400~800)、Na135mEq/l、K4.1mEq/l、Cl100mEq/l。免疫学所見：HIV抗体陰性、HBs抗原・抗体陰性、HCV抗体陰性、抗ミトコンドリア抗体陽性、AFP2ng/ml(基準20以下)。

10 この病態でみられる身体所見はどれか。2つ選べ。

- a 腹壁静脈怒張
- b 腸雑音亢進
- c 上腹部血管雑音
- d 脾腫大
- e Blumberg 徴候

11 この患者で予想される肝病理組織所見はどれか。2つ選べ。

- a 中心静脈の拡張
- b 小葉内の著明な好中球浸潤
- c 小葉間胆管の減少
- d 胆管周囲の輪状線維化
- e Glisson 鞘の線維化

12 この患者に適切な外科的治療はどれか。

- a 食道離断術
- b 脾摘出術
- c 総胆管空腸吻合術
- d 左胃静脈下大静脈吻合術
- e 肝移植

次の文を読み、13～15の問いに答えよ。

56歳の男性。言動の異常を心配した妻に伴われて来院した。担当医の要請で精神保健指定医が診察した。

現病歴： 1週前に全身倦怠感を訴え内科を受診したところ、肝機能異常の悪化を指摘され、自宅療養と断酒とを指示された。毎日欠かさなかった焼酎4～6合/日の晩酌を止め、安静に専念していたが、数日前から頭痛、発汗および不眠を訴え始め、ついで精神的に焦燥感が強く不機嫌になってきた。昨日、「部屋の中に虫がたくさんいて、おそってくる。」と大声をあげておびえ、虫を身体から払う動作を繰り返したり、家の外に逃げだそうとした。家族がいくら否定しても聞き入れない。夜になってますます不穏となり、昨夜は全く眠っていない。

既往歴： 肝障害のため2年前に投薬を受けたことがある。

生活歴： 妻と息子2人の4人家族。20歳時からの大酒家であるが、仕事には真面目な家具職人として現在に至る。

現症： 身長165 cm、体重65 kg。体温36.5℃。脈拍110/分、整。血圧140/80 mmHg。全身の発汗が著明。神経学的診察では細かな手指振戦を認める他は異常を認めない。いろいろ質問しても注意が散漫で何度も聞き直す。時には質問の内容にそぐわない答えが返ってくる。時間や場所に関する見当識や記憶力は明らかに障害されている。診察中にも、「虫がいる。」と言って何度も診察室から逃げだそうとする。入院を勧めても、「こんな恐ろしいところにいたくない。」と頑として入院を拒否する。

検査所見： 血液所見：赤血球400万、Hb 11.0 g/dl、Ht 38%、白血球9,600、血小板17万。血清生化学所見：空腹時血糖110 mg/dl、総蛋白6.0 g/dl、アンモニア30 μg/dl (基準18～48)、総ビリルビン1.0 mg/dl、AST (GOT) 150 単位 (基準40以下)、ALT (GPT) 60 単位 (基準35以下)、LDH 430 単位 (基準176～353)、アルカリホスファターゼ260 単位 (基準260以下)、γ-GTP 240 単位 (基準8～50)。

13 この患者にみられるのはどれか。

- a 痴 呆
- b 妄想状態
- c せん妄
- d 強迫状態
- e 離人症

14 適切な処置はどれか。

- a 本人の意志を尊重してそのまま帰宅させる。
- b 1週後の再受診を指示する。
- c 直ちに応急入院させる。
- d 妻の同意を得て医療保護入院させる。
- e 措置入院のための手続きをとる。

15 この患者の治療法として適切なのはどれか。2つ選べ。

- a ハロペリドール投与
- b イミプラミン投与
- c ジアゼパム投与
- d 電気けいれん療法
- e 高照度光療法

次の文を読み、16～18の問いに答えよ。

70歳の男性。言動の異常に気付いた家族に付き添われて来院した。

現病歴：2日前の午後、急に会話がチンパンカンパンとなり、落ちつきがなくなった。昨日は症状がやや改善したようにみえたが、今朝になっても奇妙な言動が続いている。

既往歴：10年前から高脂血症の治療を受けている。また、不整脈を指摘されたことがある。

家族歴：母親と兄とに高血圧症がある。

現症：身長160 cm、体重67 kg。体温36.0℃。呼吸数17/分。脈拍68/分、不整。血圧160/68 mmHg。意識は清明で発話量が多いが、質問に対する答えはトンチンカンである。項部硬直はない。顔面、舌および四肢に麻痺を認めない。「口を開けて舌を出して下さい。」と命じても別の動作をする。頸部血管雑音は聴取しない。心雑音はなく、呼吸音は清である。腹部に特記すべき所見はない。

検査所見：尿所見：蛋白(-)、糖(-)。血液所見：赤血球520万、Hb 15.7 g/dl、Ht 47%、白血球7,700、血小板29万。血清生化学所見：空腹時血糖94 mg/dl、総蛋白7.0 g/dl、アルブミン3.8 g/dl、尿素窒素16 mg/dl、クレアチニン1.2 mg/dl、総コレステロール210 mg/dl、総ビリルビン0.7 mg/dl、AST (GOT) 37 単位(基準40以下)、ALT (GPT) 45 単位(基準35以下)、Na 142 mEq/l、K 4.4 mEq/l、Cl 104 mEq/l。CRP 0.2 mg/dl (基準0.3以下)。胸部エックス線写真では心胸郭比64%、肺野に異常はない。心電図で心房細動を認める。脳波では基礎律動は9 Hzの α 波で、左側頭部に徐波が出現する。頭部単純CT(別冊No. 3)を別に示す。

別冊
No. 3 写真

16 最も考えられる症候はどれか。

- a 痴呆
- b Broca失語
- c Wernicke失語
- d Gerstmann症候群
- e 偽性球麻痺性構音障害

17 頭部単純CTで認められる病変部位の支配血管はどれか。

- a 椎骨動脈
- b 脳底動脈
- c 前大脳動脈
- d 中大脳動脈
- e 後大脳動脈

18 この病態の原因となっているのはどれか。

- a 脳炎
- b 脳出血
- c 脳血栓
- d 脳塞栓
- e 脳腫瘍

次の文を読み、19～21の問いに答えよ。

7歳の女儿。学校の教師に授業中時々目がうつろになることを指摘され、母親に伴われて来院した。

出生歴： 在胎39週3日、自然分娩で出生した。出生時の身長50 cm、体重2,930 g。Apgarスコア10点(1分)。

発育歴・既往歴： 精神運動発達は正常である。学校の成績は中等度である。

現病歴： 2週前から瞬間的にぼんやりすることに家族が気付いたが、あまり気にしていなかった。数秒間目がうつろになり、時にはフラッと倒れそうになることがあった。ぼんやりしている時は呼名に反応せず、周囲の人と目を合わせなかった。しかし、数秒後には元の状態に戻り、直前の動作を続けようとした。このようなことが1日に10～15回あった。

現症： 意識は清明。身長120 cm、体重27 kg。体温36.3℃。脈拍82/分、整。胸腹部に異常を認めない。神経学的所見には異常を認めない。深呼吸をさせると、瞬間的に目がうつろになり、呼びかけに答えないが、数秒で応答できるようになる。本人はこのような事象の詳細を記憶していない。

19 この患児で出生時にみられたのはどれか。2つ選べ。

- a 四肢にチアノーゼがあった。
- b 心拍数が95/分であった。
- c 鼻腔へカテーテルを挿入した時にくしゃみをした。
- d 四肢がベッドに隙間なく着いていた。
- e 強く泣き声を上げた。

20 この患児が3歳時にできたと考えられるのはどれか。2つ選べ。

- a 足を交互に出して階段を昇る。
- b 弾むボールをつかむ。
- c まねて丸(○)を描く。
- d 信号を見て正しく道路をわたる。
- e じゃんけんて勝負を決める。

21 診断確定のために最も有用なのはどれか。

- a 血圧
- b 心電図
- c 脳波
- d 視覚誘発電位
- e 頭部MRI

次の文を読み、22～24の問いに答えよ。

78歳の女性。発熱のため、家族が電話で訪問診療を受けているかかりつけ医に連絡をしてきた。

現病歴：3年前に脳梗塞を起こし左片麻痺となった。1年前から痴呆症状が目立つようになり、膀胱カテーテルを留置している。週2回の訪問看護と、月1回の医師による訪問診察を受けている。家族によると、2日前から食事量が少なくなった。左片麻痺の進行や新たな麻痺症状の出現はないが、一日中横になっており仙骨部の皮膚が赤くなってきた。今朝の体温は37.8℃で咳や痰はなく呼吸も荒くない。尿量が減っているとのことである。

既往歴：54歳で子宮頸癌のため広汎性子宮全摘術と放射線治療を受けた。60歳ころから高血圧症の治療を受けている。

家族構成：息子夫婦、孫1人が同居している。本人は在宅での生活を強く希望しており、息子も入院させたくないと考えている。主な介護者は息子の妻であり、やや疲労気味である。

22 電話連絡に対し、まずとるべき適切な対応はどれか。

- a 保健所へ連絡する。
- b そのまま自宅で様子を見るように言う。
- c 胸部エックス線撮影の手配をする。
- d ケアマネージャーへ連絡する。
- e 往診し身体診察をする。

23 この患者に起こっている可能性の高いのはどれか。2つ選べ。

- a 脱水。
- b 褥瘡
- c 心不全
- d 脳出血
- e 呼吸不全

24 息子の妻に対する医師の助言として適切でないのはどれか。

- a 「痴呆症状も悪くなる時とよくなる時があるのを理解しましょう。」
- b 「痴呆は入院するとよくなりますよ。」
- c 「ご家族にも協力してもらいましょう。」
- d 「あなた自身の健康も大切です。」
- e 「トンチンカンな話しにも、頭ごなしに叱らないようにしましょう。」

次の文を読み、25～27の問いに答えよ。

51歳の男性。昨夜から呼吸困難がひどくなり来院した。

現病歴：32歳時の会社の健康診断で蛋白尿と血尿とを指摘されたが、症状がなく放置していた。42歳ころから高血圧を指摘され、時々降圧薬を服用していた。45歳ころから夜間尿を認めるようになった。5日前から全身倦怠感、食欲不振、悪心および頭痛が出現した。

現症：意識は清明。身長171cm、体重79kg。体温37.1℃。脈拍98/分、整。血圧166/92mmHg。眼瞼結膜は貧血様である。胸部で心尖拍動を鎖骨中線から4cm外側に触知し、両側下肺野にcoarse crackles(水泡音)を聴取する。肝を右肋骨弓下に1.5cm触知する。腹水を認める。下腿に著明な浮腫を認める。

検査所見：尿所見：蛋白3+、糖(-)、潜血2+。血液所見：赤血球230万、Hb6.9g/dl、Ht21%、白血球7,000、血小板20万。血清生化学所見：総蛋白4.6g/dl、アルブミン2.1g/dl、尿素窒素125mg/dl、クレアチニン12.8mg/dl、Na129mEq/l、K6.6mEq/l、Cl100mEq/l、Ca7.3mg/dl、P6.0mg/dl、 HCO_3^- 12mEq/l。

25 この患者の病態で正しいのはどれか。

- a 尿の濃縮能は正常である。
- b 尿中のNa分画排泄率は上昇している。
- c 活性型ビタミンD産生は正常である。
- d 副甲状腺ホルモン産生は抑制されている。
- e エリスロポエチン産生は正常である。

26 この患者でみられるのはどれか。

- a 小球性低色素性貧血
- b 血液アニオンギャップの低下
- c 腎エコーレベルの低下
- d 中心静脈圧の上昇
- e 血清 β_2 -ミクログロブリン値の低下

27 まず行うべき処置はどれか。

- a アルブミン製剤の投与
- b サイアザイド利尿薬の投与
- c 気管支拡張薬の投与
- d 炭酸カルシウムの投与
- e 血液透析

次の文を読み、28～30の問いに答えよ。

38歳の女性。微熱と大腿部痛とを訴えて来院した。

現病歴：2か月前から全身倦怠感と微熱とが続いている。1か月前から階段の昇降が何となくおっくうになり、体動時には空咳と両側大腿部の鈍痛とを感じるようになった。関節痛や皮疹はない。

既往歴：特記すべきことはない。

現症：意識は清明。身長162cm、体重52kg。体温37.8℃。脈拍84/分、整。血圧118/76mmHg。皮膚、頭頸部に異常を認めない。背部の聴診で、両側下肺野にfine crackles(捻髪音)を認めるが、心音に異常はなく、心雑音もない。腹部に異常を認めない。両側大腿部に筋萎縮と把握痛とを認める。四肢の近位筋力はやや低下しているが、感覚や深部腱反射は正常範囲である。

検査所見：尿所見：蛋白(-)、糖(-)、沈渣で赤血球1～2/1視野、白血球5～10/1視野。血液所見：赤沈38mm/1時間、赤血球410万、Hb11.0g/dl、Ht39%、白血球6,800、血小板26万。血清生化学所見：総蛋白6.0g/dl、アルブミン3.4g/dl、尿素窒素18mg/dl、クレアチニン0.8mg/dl、AST(GOT)80単位(基準40以下)、ALT(GPT)40単位(基準35以下)、LDH420単位(基準176～353)、CK180単位(基準10～40)、Na142mEq/l、K4.6mEq/l。免疫学所見：CRP1.8mg/dl(基準0.3以下)、抗核抗体40倍(基準20以下)。胸部エックス線写真で両側下肺野に網状陰影を認める。

28 この患者の病態把握に有用でないのはどれか。

- a スパイロメトリ
- b 動脈血ガス分析
- c 心電図
- d 脊髓腔造影(ミエログラフィ)
- e 筋生検

29 この疾患でみられる針筋電図と運動神経伝導速度との所見で正しいのはどれか。

	神経筋単位	運動神経伝導速度
a	延長・高電位	低下
b	延長・高電位	正常
c	短縮・低電位	低下
d	短縮・低電位	正常
e	正常	低下

30 この疾患の治療薬はどれか。2つ選べ。

- a 抗菌薬
- b 免疫抑制薬
- c 気管支拡張薬
- d 副腎皮質ステロイド薬
- e ビタミンB₁

◎ 下記の欄に受験番号および氏名を記入すること。

受 験 番 号	氏 名 (楷 書 で 書 く こ と)